

沙羅の樹文庫だより



154 回直木賞受賞 (文藝春秋刊)

われは  
草なり  
生きんとす  
草のいのちを  
生きんとす  
(高見 順)

文庫の壁に貼り (谷崎さん書)、心みなぎる時も、心くじけそうな時も、思いおこす詩です。(さ・ら)

2016 開館スケジュール

- ◆2月は通常 20日(土)21日(日)
- ◆3月は通常 19日(土)20日(日)
- ◆4月は通常 16日(土)17日(日)
- ◆5月はロング(アートフェス参加) 14日(土)~20日(日)

☆若葉のころのおはなし会☆

- 14日夕方→大きい人向け
- 15日午前→小さい人向け

ゲスト: 東京・山の本文庫皆さん

文庫の時間

- 土曜日は午後2時~5時
- 日曜日は午前10時~午後3時

☆子どものための小さなおはなし会

毎月開館日の日曜 10:30~11:00

★おはなし沙羅の勉強会★

毎月開館日(土) 11:00~13:00



メジロも梅の香に誘われて・・・

沙羅の樹文庫 0557-51-3737  
<http://www.saranokibunko.com>  
伊東市大室高原 7-1 2 2

文庫あれこれ◆明日は大雨の予報で、日曜の大室山の山焼きも延期になりそうと漏れ聞きましたが、今のところ空には、10日月がかり、星も見え晴れています。◆今月の文庫の庭は、梅の香がして、河津桜が見頃です。◆今は二月 たったそれだけ あたりには もう春がきこえている(立原道造) どこかで見つけて気に入っている詩?です。◆気に入っていると云えば、この数か月、日曜の夜の楽しみは、NHKBS9:00pmからの『刑事ファイル』です。同感の方いませんか? 主人公の目つきが好きです。声優の声もあっていような気がするし、部下の2人も何気なく感じがいいし、などと言いたいのではなく、戦時下のロンドン近郊の町を取り囲む様子や市井の人々の営みがファイルが扱う事件を通していい感じで(いい言葉ではないのですが)伝わってきます。私はこのとき生まれるか、れたか、なのですが、ああイギリスも戦争して従後の人々は大変だったんだ、と妙に親近感を憶え、どこの国にも戦争は人々に益をもたらさないのだと共感するのです。(数日前、世の中に戦争がなくなるのは、それで益する人々がいるから、とも聞きました。ポール・ギャリコの代表作のひとつ『スノーグース』の舞台(同時期)であるのもその物語に現実味を感じさせてくれます。◆お願いしまくって10年誌の原稿も少しずつ集まっておりますが、まだまだです。どうぞ文庫を育ててくださったお仲間として、本にまつわるお話をお寄せください。◆芥川賞、直木賞受賞作、入れました。今回は近年若い受賞者が多い中で60代後半の青山文平さん(直木賞)の表紙を使わせていただきました。まだ読んでいませんが、この短篇集はどれをとっても決して古臭い夫婦随話の話ではないということです。男女間をどんな切り口で描いているのでしょうか。◆また、本屋大賞候補も自分で読まれて結果と照合してみても面白いかもしれません。◆寄贈本には私が選ばないジャンルのものもあり、ありがたいです。(西村)

2016年2月に読んだ本についての感想

2016. 2. 18 by 森林浴

『第二次世界大戦 1939-45 上・中・下三巻』アントニー・ビーヴァー著 平賀秀明訳 白水社刊 2015年9月第4版

これは素晴らしい本だ。著者は英国の戦史ノンフィクション作家。上・中・下3冊いづれも500頁を越し合計1500頁の大部の本。

正直言って読み通して草臥れ果て、体調まで一寸おかしくなりました。人間とはなんと愚かで、恐ろしい存在なのだろうかと。特にヒトラーの始めたアウシュビッツなどの殺人収容所の記録はもう二度と読みたいと思わせる部分だ。

日本を軸とする東洋の戦争とドイツを中心とする欧州の戦争がすべて書かれてあるが、やはり圧倒的に後者の比重が高い。

欧州の大戦の中核は実はドイツとロシアの独ソ戦で、ドイツは始め快調にスターリンのロシアに攻め込むのだが、その昔ナポレオンがロシアに攻め込んで厳冬の寒さに負けて敗退するに似た戦場の厳しさにドイツ軍は大敗北を喫する。そして北アフリカでの戦車戦では映画などで有名なドイツの名将ロンメルが登場する。ナチスにそしてロシアに喰い物にされるポーランドの悲劇。

英・仏・米などの連合軍とロシアとの競り合い、チャーチル・ルーズベルト・フランスの亡命政権のド・ゴールなどのトップの微妙な競り合いと駆け引き。ヒトラーやナチス幹部の最後。読み終えて感じるのは、やはり欧州におけるドイツの頭抜けた力、怖さである。かつて、この感想文の欄で紹介したエマニュエル・トッドが

くどい位強調する「ドイツという国・ドイツ人という民族の恐ろしさ」ということを思い知らされる。民族性から言ってフランスはドイツに勝てないのだ。

日本を中心とするアジア・太平洋の戦争については欧州関係に比して少し記述は少ないが、真珠湾攻撃からミッドウェイ海戦、ガダルカナルなどの南洋諸島やビルマでの闘い、そして中国における長期の戦争など、過不足なくポイントが押さえられて記述されている。写真も興味深い。

※2月11日付朝日新聞朝刊に、森林浴さんが書いておられ今回も触れているエマニュエル・トッド氏の「展望なき世界」と題したインタビューが載っていました。また、森林浴さんのトッド著新刊『シャルリとは誰か?』の感想文が楽しみです。(さ・ら)



河津ざくらに慰鶺 (ジョウビタキ)

2016 本屋大賞ノミネート作品

- 『朝が来る』(辻村美月著 文藝春秋)在庫
- 『王とサーカス』(米澤穂信著 東京創元社)2月
- 『君の隣をたべたい』(住野よる著 双葉社)2月
- 『教団X』(中村文則著 集英社)
- 『世界の果てのこどもたち』(中脇初枝著 講談社)在庫
- 『戦場のコックたち』(深緑野分著 東京創元社)2月
- 『永い言い訳』(西川美和著 文藝春秋)在庫
- 『羊と鋼の森』(宮下奈都著 文藝春秋)2月
- 『火花』(又吉直樹著 文藝春秋)在庫※芥川賞
- 『流』(東山彰良著 講談社)在庫※直木賞

☺すっかり世間に書店員が選ぶこの賞が根付きましたね。10作品中9冊文庫にあります。4月には大賞決定とか。どの作品が選ばれるのでしょうか。☺

左の画像は相変わらずネットから拝借しましたが、鳥名の「慰鶺」の字が読めず、これも、ネットで鳥がつくりになっている字をやっとのことでみつけました(インターネット様様です)。この鳥は冬鳥(季語としては秋)のようです。いくつかの鳥の漢字を憶えちよっと物知りになりました。ご存じでしたか?

鶺鴒、鶺鴒、鶺鴒、鶺鴒・・・ (さ・ら)

## 16年2月に入った子どもの本

### 絵本

『イモリくんヤモリくん』(松岡たつひて作・  
絵 岩崎書店 2016) ID11915  
『半日村』(斎藤隆介作 滝平二郎絵 岩崎書店)  
ID11916※読み継がれ絵本

### 紙芝居

『ふくはうち おにもうち』(藤田勝治脚本・  
画 童心社) ID11917  
『かおりちゃんのマフラー』(内田麟太郎  
脚本 武田美穂絵 童心社) ID11918

## 広瀬おぼさんから 2016-2

### 読み物

『なかよくなれたね』(森山京作 ささめゆき  
絵 文溪堂) ID11861  
『ようふくなおしのモモー又』(片山令子作  
のら書店) ID11869  
『川床にえくぼが三つ』(にしがきようこ作  
小学館) ID11859  
『ゆめみの駅遺失物係』(安東きみえ作 ポブ  
ラ社) ID11858  
『べんり屋、寺岡の冬。』(中山聖子作 文研出  
版) ID11857

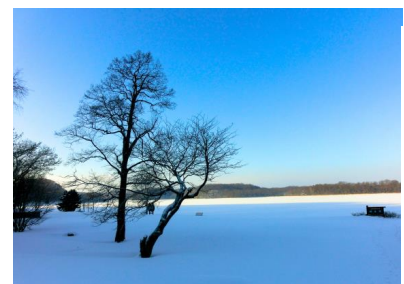
『星が導く旅のはてに』(スーザン・フレチャー作  
徳間書店) ID11855  
『マザーランドの月』(サリー・ガードナー作 小  
学館) ID11856

### 科学読み物

『こだわりからぬけられないの(わかって私の  
ハンディキャップ1)』(大月書店) ID11862  
『あきらめないことにしたの』(堀米薫作 新日  
本出版社) ID11865  
『おどろろ! みんなで手話ダンス』(島田和子作  
新日本出版社) ID11864  
『東京駅をつくった男』(大塚菜生作 くもん出  
版) ID11867  
『光を失って心が見えたー全盲先生のメッセー  
ジ』(新井淑則作 金の星社) ID11868  
『水木しげるの妖怪なぞなぞめぐり』(水木しげ  
る作 こぐま社) ID11866  
『うなりやべん ベんの紙芝居』(NHKE テ  
レ「にほんごであそぼ」制作班編) ID11896  
『くだものと木の実いっぱい絵本』(ほりかわま  
こ作 あすなる書房) ID11897  
『そうのなみだ ひとのなみだ』(藤原幸一作 ア  
リス館) ID11898  
『さがそう! マイゴノサウルス』(やましたこう  
へい作 偕成社) ID11899  
『せんせい! これなあに? ⑤おち葉』(亀田龍  
吉写真 有沢重雄構成・文 偕成社) ID11900

『世界のともだち14 南アフリカ共和国』(船  
尾修作 偕成社) ID11901  
『世界のともだち25 インドネシア』(石川梵  
作 偕成社) ID11902  
『世界のともだち26 ミャンマー』(森枝卓士  
作 偕成社) ID11903  
『世界のともだち27 キューバ』(東海林美紀作  
偕成社) ID11904  
『世界のともだち28 エチオピア』(八木虎造  
作 偕成社) ID11905  
『世界のともだち29 オーストラリア』(阪口  
克・中山茂太作 偕成社) ID11906  
『世界のともだち30 セネガル』(小松義夫作  
偕成社) ID11907  
『世界のともだち31 イタリア』(山口規子作  
偕成社) ID11908  
『世界のともだち32 ドイツ』(新井卓作 偕  
成社) ID11909

🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸



凍りついた湖面(銅走湖)

## 16年2月に入ったおとなの本

### フィクション

『異類婚姻譚』(本谷有希子著 講談社 2016)  
ID16516 ※154回芥川賞受賞  
『羊と網の森』(宮下奈都著 文藝春秋 2015)  
ID16517  
『光のない海』(白石一文著 集英社 2015)  
ID16518  
『獅子吼』(浅田次郎著 文藝春秋 2016)  
ID16519  
『のろい男一俳優・亀岡拓次』(成井昭人著 文藝  
春秋 2015) ID16520  
『死んでない者』(滝口悠生著 文藝春秋 2016)  
ID16528 ※154回芥川賞受賞  
『君の臓腑をたべたい』(住野よる著 双葉社  
2015) ID16530  
『王とサーカス』(米澤穂信著 東京創元社  
2015) ID16544  
『江ノ島西村写真館』(三上延著 光文社 2015)  
ID16521  
『その姿の消し方』(堀江敏幸著 新潮社 2016)  
ID16560※request  
『ママがやった』(井上荒野著 文藝春秋 2016)  
ID16559※request  
『戦場のコックたち』(深緑野分著 東京創元社  
2015) ID16558  
『つまをめとらば』(青山文平著 文藝春秋  
2015) ID16523※154回直木賞  
『お伊勢まいり一新・御宿かわせみ』(平岩弓枝著  
2016) ID16524  
『美について』(ゼイディー・スミス著 堀江里美  
訳 河出書房新社 2015) ID16525

『ゲルダキーバが愛した女性写真家の生涯』  
(イルメ・シャーバー著 高田ゆみ子訳 祥伝社  
2015) ID16526※request  
『片手の郵便配達人』(グードルン・パウゼハンク  
著 高田ゆみ子訳 みすず書房 2015)  
ID16534※request

### エッセイ

『東大駒場寮物語』(松本博文著 角川書店  
2015) ID16522  
『終わった人』(内館牧子著 講談社 2015)  
ID16533  
『絶筆』(野坂昭如著 新潮社 2016) ID16557  
※request

### 新書

『朝鮮と日本に生きる』(金時鐘著 岩波新書  
2015) ID16542  
『メディア・コントロール』(ノーム・チョムスキ  
ー著 集英社新書 2016) ID16554※request  
『人の話を「聴く」技術』(メンタルケア協会編著)  
ID16542※request  
『シャルリとは誰か?』(エマニュエル・トッド著  
文春新書 2016) ID16555※request

### 文庫

『わたしを離さないで』(カズオ・イシグロ著 ハ  
ヤカワ epi 文庫) ID16543※日本版:TV 放映中  
『千住家、母娘の往復書簡』(千住真理子、千住文  
子著 文春文庫 2015) ID16527  
『エチュード春一番第一 曲子犬のプレリュー  
ド』(荻原規子著 講談社 2016) ID16529

### ★伝記という本たちと棚使い★

中途半端なスペースが空き、困ったときの本棚で、《子  
どもの本の著名な作家紹介》の棚を紹介しようかと見  
にいきました。文庫の本は本来、図書館とおなじく日本  
十進分類表に従い書架を使い分けねばならないと思う  
一方で、こんな小さな文庫ではそんなに細かに仕分は  
不要だろうと始めた文庫独自の棚使いでした。でもそ  
のうちに様々なジャンルの本が集まって新たに配架す  
るのに困った状況になってきました。考え方のほんの  
少しの違いで同じジャンルのものが別の棚に分かれて  
しまうこともその一つです。ということで、この棚に立ち  
寄らない方に大人向けの文学者研究(伝記)の本を見  
つけたのでご紹介します。(目下、階段下右、子どもの  
読み物低学年棚の右)  
※また本来の人物伝は階段があがったすぐ右です。

『葎の渚-石牟礼道子自伝』(藤原書店)  
『折口信夫の青春』(富岡多恵子×安藤礼二著 ぶ  
ねうま舎)  
『木下空太郎を讀む日』(岡井隆著 幻戯書房)  
『父でもなく、城山三郎でもなく』(井上紀子著 毎日  
新聞社)  
『須賀敦子の方へ』(松山巖著 新潮社)  
『瀬戸内寂聴に聞く寂聴文学史』(尾崎真理子著 中  
央公論新社)  
『死んだら何を書いてもいいわー母・萩原葉子との  
186日』(萩原朔美著 新潮社)  
『藤沢周平伝』(笹沢信著 白水社)  
『藤沢周平の世界』(文藝春秋)  
『向田邦子の陽射し』(太田光著 文藝春秋)  
『東と西-横光利一の旅愁』(関川夏央著 講談社)

等等など  
子どものころ学校の図書館で楽に読める偉人伝記を読  
み漁り、自分もこんな人になりたいと夢を馳せるのは、  
今の子どもも同じようです(6年の孫から聞きました)。  
さあ、5月までに、少し棚の整理をするぞ!?  
スタッフさんよろしく! (さくら)